



1



2

1. 背景
 - 1-1. 墨田区の概要
 - 1-2. 被災の記憶
 - 1-3. 墨田区北部地域の現状
 - 1-4. すみだ燃えない壊れないまちづくり会議
2. (NPO)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊
 - 2-1. 目的と目標像
 - 2-2. 特徴
 - 2-3. ふじのきさん家における活動
3. 新たな防災文化の創造を目指して
 - 3-1. 防災の観光化
 - 3-2. 観光の防災化
4. 防災観光ひろしき～ナマズひろしき～

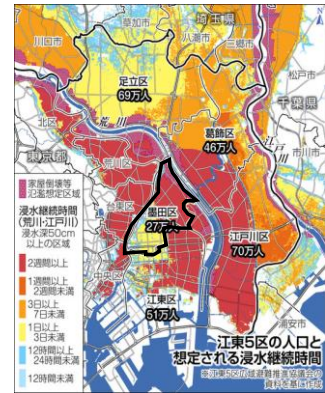


3

1-1. 墨田区の概要

東京都東部の
都心に近接する区
人口27万人

中小企業を中心とする
産業が業態転換、
都心の近接性から、
ファミリー層を中心
とする人口流入が進む



4

1-2. 被災の記憶

100年間で、2回の大きな被災
墨田区北部地域の一部が、被災を免れる

関東大震災(1923.09.01)で本所
被服廠跡地への避難者が火旋風の
発生などで、3万8千人焼死



第二次世界大戦の空襲によって、
6万人超の死傷者と30万人近い
罹災者(残っている手前の丸い建物は旧国技館)



5

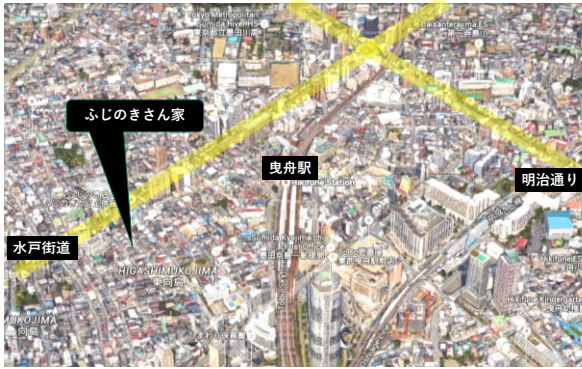
1-3. 奥舟周辺(すみだ
テクノプラザ周辺地域)の現状

(1)
燃えやすく、壊れやすい
住工混在木造密集市街地

⇒ 不燃化促進事業等
による延焼遮断帯形
成と耐震改修等に
よる燃えない壊れない
まちづくりの推進



6



7

■防火・耐震化改修促進制度

- 老朽木造建築物の防火性能と耐震性能を同時に向上させることを目的として平成24年12月に制度化。
- 平成27年1月より事業を一層促進させるために防火・耐震化改修促進助成事業の対象区域と事業の拡充。
- 事業推進のための検証・研究を実施

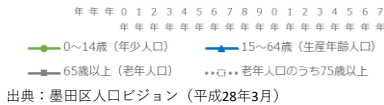


8

墨田区 4区分別人口推移

イ) 貴会等会の活動の中で、このまま役員の高齢化が進むと実施が困難であると思われる活動は何か。あてはまるもの全てに○を記入ください。

	回答数	割合
① 会費等の集金	67	39.4%
② 回覧板等による情報提供	39	22.9%
③ パソコン・スマートフォン等の活用	69	40.6%
④ 募金活動	38	22.4%
⑤ 清掃・リサイクル活動	51	30.0%
⑥ 防犯・防災パトロール	69	40.6%
⑦ 防災訓練	79	46.5%
⑧ 助け合い・見守り活動(高齢者・障がい者への支援など)	76	44.7%
⑨ 町内の親睦活動(旅行会・交流会など)	53	31.2%
⑩ その他	8	4.7%
合計	549	



出典：墨田区人口ビジョン（平成28年3月）

9

○繊維、化学などの雑貨工業や機械・金属、出版・印刷など、我が国を支える中小零細規模の工場

○東京23区で3番目に多い製造業数、区内産業構成は 製造業が26%を占め(東京都平均10%)ものづくりの街

○大工場の区外移転や後継者不足などにより、ピーク時の半数(4,655、平成18年事業所統計)まで減少

墨田区独自のものづくり伝統タウンプライド

10

1-4. すみだ燃えない壊れないまちづくり会議 (平成21年度～27年度)

(1) すみだ燃えない壊れないまちづくり会議における施策検討・墨田区の燃えない壊れないまちづくりを促進する施策研究を行う、区長諮問組織として会議体の発足

○不燃化促進事業等のハード対策と福祉施策などのソフト対策の連携方策検討(平成21年度より継続検討)

11

参考資料1：委員リスト(H26.04.時点)

役職	名前	現職
座長	小出 治	東京大学大学院教授
委員	市古 太郎	首都大学東京准教授
委員	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所准教授
委員	中村 仁	北海道工科大学教授
委員	安井 昇	明道大学経営学部経営学科助教
委員	安井 昇	板設計集団一級建築士事務所代表
委員	田村 静子	胸ライフエイドネットワークデザイン代表取締役
委員	藤 紀也	胸シグマ開発計画研究所取締役
委員	土肥 英生	日本都市計画家協会理事
委員	康川 尚益	(公社)日本建築協会災害対策委員長

公益性が担保された多様な立場の専門家が関わる円卓会議

委員	大滝 信一	福祉保健部長
委員	南雲 昇	都市計画部長
委員	久井 隆司	都市計画部住宅課長
委員	小柳 賢一	都市計画部防災まちづくり課長
顧問	長谷見 雄二	早稲田大学教授
役職	名前	現職
オブザーバー	市川 真一	(株)住宅金融支援機構まちづくり推進部
オブザーバー	佐田 裕子	特定非営利法人長寿安心会 代表理事
オブザーバー	石井 儀光	独立行政法人建築研究所 主任研究員

12

1-2. すみだ燃えない壊れないまちづくり会議 (平成21年度~27年度)

(2) 東向二四地区まちづくりを考える会の立ち上がり

- 町内会の会館が無く、地域の奇合い処へのニーズ (平成21、22年まちづくり計画策定担い手支援事業)
- 都市防災と福祉施策の連携を目指す



東向二四まちづくりを考える会 対象区域

13

1-2. すみだ燃えない壊れないまちづくり会議 (平成21年度~27年度)

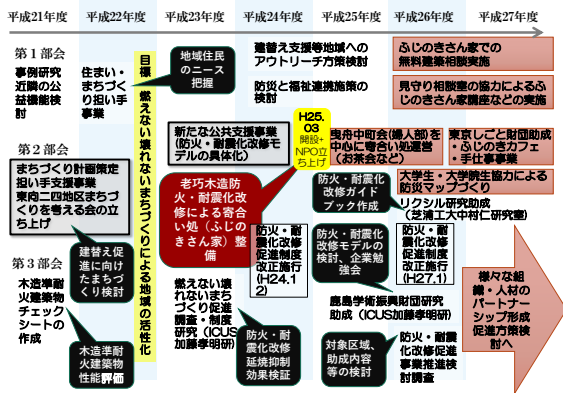
(3) 新たな公共支援事業

(防火・耐震化改修モデルの具体化)

- 町内篤志家の協力による、空屋の防火・耐震化改修モデル整備

▶平成25年4月 ふじのきさん家オープン、運営NPO(燃えない壊れないまち・すみだ支援隊立ち上げ)へ

14



15

2. (NPO)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊の取組み

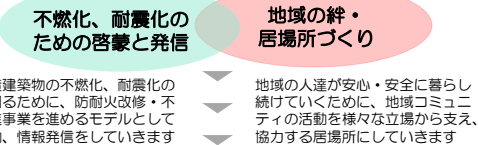
16

2-1. 目的と目標像

■目的

建物の不燃化、耐震化といったハード面の対策とあわせて、地域福祉の向上や地域の活性化等のソフト面の対策を進め、地域防災強化の拠点として機能する「奇合い処」を立ち上げ。

■目標像



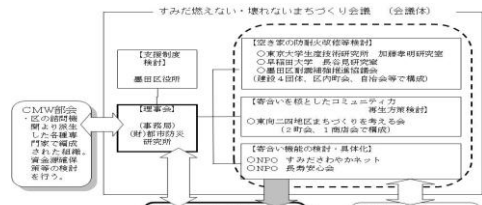
安全・安心の拠点へ

17

2-2. 特徴

○多様な団体の協力による整備・運営

8つの構成団体がすみだ燃えない壊れないまちづくり会議を結成、検討を重ね「奇合い処(ふじのきさん家)」を整備、各団体は現在も、NPO法人の運営活動に協力。



農田区耐震補強推進協議会が全面的に協力し、奇合い処の改修整備を推進

各材料メーカーの協力を得て、新しい耐震・防火技術を導入

早稲田大学長谷見研究室と東京大学生産技術研究所加藤孝明研究室が協力し、技術面をアドバイス

18

○篤志家の協力による空屋提供（昭和40年頃築）

■改修前と後（1階平面図）



19

■改修前と後（2階平面図）



20

○部材メーカー等からの、改修等素材の提供（企業と地域の連携モデル）

企業・団体名	提供いただいた商品
(一社)石膏ボード工業会	石膏ボード(内装材)
東京東信金庫	ポスター印刷、掲示、イベント用グッズなど
旭トステム外装機	壁王（外壁材）、透光型耐震補強パネル（耐震関連部材）
榊キートック	耐震開口フレーム（耐震関連部材）
三和シャッター工業機	シャッター（防火関連部材）
榊セキノ興産	ダンネットトップ/S&Sルーフ（屋根材）
高久産業機	案内用QRコードタイル
タカラスタンダード機	キッチン・衛生器具
日鉄住金鋼板機	ニスクボード（屋根材）
アサヒ飲料機	寄付金付き自動販売機
アクリザープ機	水道水貯水装置（マルチアックア）
東リ（株）	タイルカーペット

21

2-3.

ふじのきさん家における活動内容

(1) 運営主体
NPO 燃えない壊れないまち・すみだ支援隊
(代表理事：小出治) 理事・監事(区内在
勤・在住)3名、区外3名、会員24名、
年間予算400万円～500万円

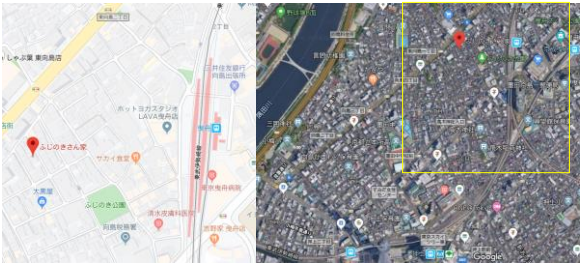


<参考：名称の由来>
地域で多くの方に利用されている「ふじのき公園」から近いこと、藤が「歓迎」を意味する花言葉であることから、誰もが気軽に訪れ、親しみを込めて呼んでいただけるように、「〇〇さんち」とした。

22

2-3. ふじのきさん家における活動内容

(2) 位置



住 所：〒131-0032墨田区東向島2-4-3

開所日： 火～土 10時～17時

23

■展開イメージ

スペースの活用



24

■ふじのき定食

週2回水曜日、金曜日開催
ワンコインの500円
限定20食（電話予約優先）
3年目の取り組み



25

■防災子ども食堂

毎月第3水曜日開催 40人食準備

料金：子ども100円大人300円

目的：声をかけあえることで防災力を高める目的とフードロス対策

実施結果（2019年）：
9月17人参加（子供16人、大人1人）
10月51人参加（子供43人、大人8人）
11月41人参加（子供32人、大人9人）



26

■ふじのき音楽倶楽部

毎月1回開催

料金：300円（お菓子つき）

目的：歌を通しての地域交流

実施結果（2019年）

9月 14人参加

10月 12人参加

11月 13人参加



27

■防災講座（地域と大学・企業をつなぐプログラム）

- ・芝浦工業大学地域安全システム研究室との連携
- ・すみだの巣づくりプロジェクトとの連携（学生ボランティアグループ）



芝浦工大生（地域安全システム研究室）が作成した防災マップ

28

■建築無料相談

建築の専門家が、建物に関するお困りのことや、気になっていることなど何でも相談できる無料建築相談会を月1回、実施、住宅と違い、寄合い処として、防火・耐震化改修が見えるようになっているため、相談に訪れた方が改修について学ぶことができる。



「建築無料相談会」ではすみだまちづくり協会の建築士が親身になって相談

29

■ものづくり・手仕事

東京しごと財団の助成による、ものづくり・手仕事づくり



そうタイプ

きりんタイプ

高久産業㈱と連携した 防災用品モデルの検討（おむつをクッションにする防災ずきんパック）

カエルキャラバンでの、防災CAPづくりワークショップ

30

■寄り合い事業の成果

○年間、延べ約4,000人の利用。(常連客が中心に)

【利用者の特性】2019年4月～7月
 10代11.3%、20-30代22.4%、30-40代9.4%、50代-60代34.3% 70代以上22.6%
 食事、趣味など通じた生きがいを提供する場となりつつある。

○ふじのきさん家・防災観光ふるしき見学・視察

- ・見学・研修目的に来訪が増加。
- ・メディアへの露出と相まって、月3回以上に。

○協力組織とのネットワークの拡大

- ・すみだの巣づくりプロジェクト(芝工大大学生ボランティアグループ)
 - ・一寺言問を防災のまちにする会
 - ・むこうじま高齢者みまもり相談室
 - ・墨田区立小学校PTA連合会
- 防災遠足などイベントを実施する際の事務局機能も提供。

31



3. 新たな防災文化の創造にむけて

32

3-1. 防災の観光化

～地域の魅力と価値の発見と防災意識をつなぐ～

学生ボランティアグループ『すみだの巣づくりプロジェクト』との協働作業

・防災遠足

防災だけでなく、地域の魅力も学び、体験する避難行動確認プログラム
 地域包括支援センター、公園協会、町会と円卓会議を通じて連携

・防災観光ふるしき～ナマズふるしき～

防災情報の載ったふるしき製作と子どもたちの活用プログラムの展開

33

■すみだの巣づくりプロジェクトとの連携

「すみだの「巣」づくりプロジェクト」～「つながり」から「防災」をつくる～

私たちの活動をきっかけに、地域全体でまちづくりについて考えることを文化に

34

■パートナーシップを支える地域の円卓会議(防災遠足会議)



向島見守り相談室、(NPO)長寿安心会、墨田区耐震化促進協議会、(NPO)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊、芝浦工大地域安全システム研究室、芝浦工大すみだの「巣」づくりプロジェクトチーム

35

■防災遠足

『防災遠足』～実践的避難訓練×まちあるき～

災害の危険性が高い墨田区木造密集市街地の住民より「どこに避難するのがわからない」「1人で避難できるかわからない」という声があり、実際に避難経路を歩くことで避難場所と自身の避難時の行動を確認すること、まちの魅力を感じながら自分の住む地域を学ぶ場として「防災遠足」という構想が生まれました。

防災遠足の特徴・効果

- 誰でも参加しやすくなるように、遠足のような楽しさがある
- 歩きながらまちの個性・危険な場所を発見できる
- 自身の避難経路・行動の確認ができる
- 福祉・医療・まちづくりの専門家が連携することで、PDCAを繰り返しながら避難時の課題の明確化・対策検討ができる
- 多様な災害対応にあわせて実践的に訓練することができる
- それぞれの地域の個性に合わせて「防災遠足」を応用できる

防災遠足検討会

まちを知る・自分を知る

- 1 まちの個性を知る
路地裏(湧水を引いたポンプ)の使い方やまちの歴史なども学ぶ
- 2 歩いて体感する
避難経路まで歩くことで距離を体感し、共同が必要であるかを確認する
- 3 助けが必要な場所を知る
災害時警備員や職員のいるところを、共同が必要となる場所を知る
- 4 危険な場所を知る
避難時に危険時の所を遠くから確認し避難ルート決定に役立てる
- 5 防災食体験
避難時に想定される食事を防災食糧を使って作り、食べる体験をする

36

日常に防災をプラス

43

■観光防災ふるしきの特徴

街の名所 地図を目にしてみよう機会を増やす

 小さな博物館 伝統工芸や地域企業のものづくりの現場を見たり体験できる場所	 墨田区内循環バス 北部と南部をつなぐ地域循環バス「すみまろくん、すみりんちゃん」のルートの紹介	 銭湯 大きな風呂であったらもう
 隅田川花火大会 毎年恒例の花火大会の会場の紹介	 桜の名所 桜がたくさん咲いている絶景スポットを紹介	 避難する方角の目印に

44

■観光防災ふるしきの特徴

避難場所 大人でも難しいので小学校でもわかる内容に

知っておくと便利な避難場所の順番



45

■観光防災ふるしきの特徴

日常時 壁に貼ったり、カバンに入れて携帯するなど

非常時 水を運ぶ、シャワーになる



46

■防災をアクティビティへ

①墨田区立第一寺島小学校

日時：2018年6月29日(金)
 場所：墨田区立第一寺島小学校 校庭
 参加者：小学5年生 生徒63人、教員3人
 内容：小学校の特別授業として、超撥水の防災観光ふるしきを使用したバケツリレーと、防災クイズを実施
 協力：第一寺島小学校、ふじのきさん家



②墨田区立梅若小学校

日時：2018年9月1日(土)
 場所：墨田区立梅若小学校 体育館・校庭
 参加者：小学1～6年生 生徒約40人とPTA
 内容：PTAが実施する防災訓練にて、超撥水の防災観光ふるしきを使用したバケツリレーと防災クイズを実施
 協力：梅若小学校PTA



47



2018年7月8日 東京新聞掲載

48

■メディア掲載実績

- J-com 2018年6月29日 デイリーニュース放映 (TV)
- 東京新聞2018年7月8日 (web&紙面掲載)
- テレビ朝日2018年7月13日スーパーJチャンネル関東ローカルニュース(TV)
- よみうり大江戸あんしんぶん2018年07月20日 (紙面掲載) ●TBSラジオ2018年7月23日「森本毅郎・スタンバイ！」現場にアタック！出演 (ラジオ)
- 文化放送 2018年7月24日くにもまるジャパン極デイレリーはっとニュース (ラジオ)
- 毎日新聞 2018年9月4日 (web&紙面掲載) @大学=防災を考える 災害時にも観光にも 芝浦工大生とNPO ふろしき製作
- 日経新聞 2018年10月10日 (web&紙面掲載)
- NHK 2018年11月12日「おはよう日本」まちかど情報室 放映 (TV)
- J-WAVE2018年12月30日「SUNRISE FUNRISE」CRAFT MARKET出演 (ラジオ)
- 日経新聞2019年7月20日style nikke (web&紙面掲載)
- 2019年7月23日池上彰と考える2020年の東京参加 (イベント)

49

■防災を観光化へ



▲墨田区観光課、観光協会とイベントのコラボ



▲墨田区刀剣博物館 ミュージアムショップで採用

51

■観光×防災という観点

○防災という言葉のイメージは

負をなるべく小さくするという**義務感のイメージが強い**

○防災への取り組みを文化という観点から捉えなおすこと
によって、**日常的な活動一部**となる。

○防災観光ふるしきは、**地域の防災を「文化」として捉える**
試みの一つとして位置づけたい。

50



52